



【詩 二編】

三月の或る日

びとう みつあき

吾がいのち
君がいのち 愛おしむ
イラクの人を思いて

六十年のむかし
ふりかかると焼夷弾の雨の中
防空壕でおびえし少年

「九条を守ろう」の呼びかけに
貧者の一灯を署名とともに
孫子の平和のために

にわかになせわし改憲の大合唱

戦争を知らない大人たち

病い のりこえさし

吾が心 切り裂かれる思い

万博も 野球も 音楽会も 愛も

平和な世であればこそ

心にとどく

残された いのち

九条の衣をまとい

静かに燃えつきたい

すべての人の いのち愛おしむ

(びとう・みつあき、「愛知低肺機能
グループ」会長)

戦争をさせる人間たちへ

さはし やよい

ブッシュよ 小泉よ

戦争をさせる人間たちよ

知っているのか

お前たちのせいで

親をころされ

戦火に追われ

逃げまどう子らのいることを

ブッシュよ 小泉よ

戦争をさせる人間たちよ

知っているのか

泣く力も

顔にたかるハエを追う力もない子ら
に

「今、一番ほしいものは何か」

と問えば

「平和がほしい」

と答えることを

ブッシュよ 小泉よ

戦争をさせる人間たちよ

その子らの所へ行け

その子らと同じ空気を吸い

その子らと同じ生活をしに行け

「軍隊も武器も、すべてなくす」

「二度と、戦争はさせぬ」

そう誓える日まで

(さはし・やよい、本会員)